

亦表して羽波と云ふ新き東流ひ也なり **雲水** 羽波
此て新波中一と揚登之婚礼の式なり **雲水** 羽波
あり林武と云ふ **娼婦** 支之神自身を法を **娼婦**
遠くたり **雲水** 娼婦 浮世也 娼婦を云ふ **娼婦**
娼婦と云ふ **小向** 女娼婦なり **引** 母 一 懸るはらわく
を **小向** 女娼婦なり **引** 母 一 懸るはらわく
なり **引** 母 一 懸るはらわく **引** 母 一 懸るはらわく
支一の翁量と云ふなり **雲水** 娼婦の住村を云ふ
を **雲水** 娼婦の住村を云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ
と云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ
風流 花を云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ
と云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ **雲水** 娼婦の住村を云ふ

娼婦の身を **娼婦** 中 娼婦の苦傷 **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
形 **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
法 **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
あ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
男 **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
娼 **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
娼婦 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
娼婦 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
娼婦 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ
娼婦 娼婦の味縁を云ふ **娼婦** 娼婦の味縁を云ふ

おるいふゆゑの
次を罷ませり

浪花新町 (浪中) 左史

麻中女帝の上と小立おまふ法氣
をさふいげと容美風俗緒と一を

撰^ひ職^をおませり放^つおき人^を天神^と法^をゆき同指^を史^と
言^は位^のの息女^{とい}ひても暇^す

出^は出^は位^もも上^中下^{にて}人^んん
之^は候^所教^を利^し小^と神^ん中^の見^世天神^と親^女帝^を帝^と

小^日括^傘差^か貴^氏麻^子位^は廓^をてハ^新の香^りおま^り和^氣
あ^るふハ^昔括^をり^し麻^子位^は廓^をてハ^新の香^りおま^り和^氣

女^帝價^下お^まり^し新^造吉^系徳^系同^一括^をり^しと^は廓^をてハ^新の香^りおま^り和^氣

お^緒の香^りひき^き引^舟彼^の扇^をと^きより^し禿^他亦^と違^ひは^せ
な^るあり^し引^舟彼^の扇^をと^きより^し禿^他亦^と違^ひは^せ

楊^屋より^し浪^の運^不お^まり^し柔^氏女^帝享^保年^中より^し飛^云子^姫り
女^小ハ^ラウ^ウく^やあ^らう^く柔^氏女^帝享^保年^中より^し飛^云子^姫り

飛^云子^姫り^し左^衛門^を持^とい^ふ左^衛門^を持^とい^ふ
飛^云子^姫り^し左^衛門^を持^とい^ふ左^衛門^を持^とい^ふ

秀^吉公^のお^おより^し仲^居比^奈で^ハ姫^ての^客人^ハ左^史を^かり^て
秀^吉公^のお^おより^し仲^居比^奈で^ハ姫^ての^客人^ハ左^史を^かり^て

扱^入心^志ハ^ひひ^ひひ^ひひ^ひひ^ひひ^ひ桃^打を^持たり^し友^友
扱^入心^志ハ^ひひ^ひひ^ひひ^ひひ^ひひ^ひ桃^打を^持たり^し友^友

赤^度利^友お^お付^寄り^し艶^男お^おて^る者^也
赤^度利^友お^お付^寄り^し艶^男お^おて^る者^也

同^嶋之内^浪南^伯人^伯人^と女^帝の^名也^{なり}
同^嶋之内^浪南^伯人^伯人^と女^帝の^名也^{なり}

月^一く^伯人^かと^は女^帝の^名也^{なり}髮^梳女^は凡^凡呂^呂株^の女^帝の^名也^{なり}
月^一く^伯人^かと^は女^帝の^名也^{なり}髮^梳女^は凡^凡呂^呂株^の女^帝の^名也^{なり}

女^帝の^名也^{なり}株^の女^帝の^名也^{なり}居^るの^名也^{なり}
女^帝の^名也^{なり}株^の女^帝の^名也^{なり}居^るの^名也^{なり}

二月朔、上皇入込廓中、（新町の郷の
少少の）無忌留す、**初午**○九身助稻荷、（りり名もま
そのも）あり、**後、中稻荷**、（あ）戸町、**昭石稻荷**、（あ）伏見丁、**老敬稻荷**、（あ）赤田

若座稻荷、（あ）廓外五十男小あり、（あ）日下町と、（あ）城を、（あ）夜分

洛西 菜種供、（あ）二月廿六日、**浪南** 汝于、（あ）三月三日、**雜**、（あ）三月廿六日

洛西 壬生乞、（あ）三月廿六日、**江吉** 三社祭、（あ）二月十八日、**佛生會**、（あ）四月八日

東寺法 穀供、（あ）二月廿一日、**江吉** 三社祭、（あ）二月十八日、**佛生會**、（あ）四月八日

復、（あ）二月廿一日、**江吉** 三社祭、（あ）二月十八日、**佛生會**、（あ）四月八日

洛東 灌佛、（あ）四月八日、**洛西** 住吉洲、（あ）六月十九日

浪南 津田、（あ）六月廿八日、**浪南** 津田、（あ）六月廿八日

十二月十七日十八日淡草大市正月のいひ庭火大橋日の夜より秋女帝の座に葉秋

葉常能事申の座に通神女帝の座に

乃飛舟のちりあきみの貞保正保の以角丁系とのひー女帝名藤のの自生享保の以の廓をの世をの浪中茶喫法喜天全一等小州登を接の親音喜浪南お

通の船形の女帝の名藤の自生の享保の以のの妻

廓をの世をの浪中の茶喫法喜の天全の一

等小州の登をの接の親音の喜の浪南のお

のの揚枝の付の女帝の名藤の自生の享保の以のの妻

而持の女帝の名藤の自生の享保の以のの妻

女帝の名藤の自生の享保の以のの妻

乃飛舟の名藤の自生の享保の以のの妻

檀中の女帝の名藤の自生の享保の以のの妻

乃飛舟の名藤の自生の享保の以のの妻

乃飛舟の名藤の自生の享保の以のの妻

乃飛舟の名藤の自生の享保の以のの妻

乃飛舟の名藤の自生の享保の以のの妻

傾城塚

津の國沖傍田の中小なるのやへは空上人小僧
 婦人の依依に交戒を以て上人隣と授けた
 まへに夜人の控女前より沖傍川へ所を促め空へ
 里人死體を去上げ葬りて空を是を傾城塚と名号
 て今小あり三蔵小あり
 中ノ骨塚 寛文年中どん
 入も寺の廟や夕ざり塚あり大坂十の所
 津寺あり建宝六年午正月六日病死 井筒と去
 信 佐原高西舟波産地へ井筒勸の肉小所あり一者の俗
 名法名を考り一は薩吊ひしと名まて時代詳あり
 三勝 佐原高西舟波産地へ元禄の以籍子名法名三勝
 名和名傳高をせとりのとん中せ

江吉 高

尾墓

宋女場

静

右の石碑を芝居座前まは長旗を建て今小あり
 尾墓 三浦三代の全聖人の能あつたる女形有り墓と名を
 うゆめつり 寛文の以博町屋全座の女形名刺の寛文子細めて
 宋女場 厚重座の格子先少く控身もるそ夜宋女吉成
 此の者死骸を葬り塚を繞り池の邊より静
 静 是れ寛文の以江下丁五座の抱少く毎日髪を洗ひ水髪
 髪して危と成り 誰哉 昭曆の以江下丁五座目田屋抱乃
 彼乃小出なり 女形誰哉ある夜月四座小抱より
 為る乃く物若ともおれ重敷若小及び空なるお子知ま
 此の後の月心乃以時より廓中小形燈を出さる

静 髪小

左支三休夜の江ハ藤子ハまきす
昔のと似り雲を海をほふやうり

江吉 大松燈籠 女弟の燈籠
大松燈籠 大松の燈籠
女弟の燈籠

所ハある時常盤の門には並く是と云ふ小
あき流子花下らあやういじん方あり
大桐子板 宵月松の内侍の
町人あり小虎小

持せたり是ハ中長流を登對ちといふ女弟
持せたり是ハ中長流を登對ちといふ女弟
琴 鼓 鼓

三味線 尺八 鼓 左鼓 右鼓
三味線 尺八 鼓 左鼓 右鼓
竹葉管

長持 用管管 衣杉 香具 煙草盆
長持 用管管 衣杉 香具 煙草盆

是ハ女弟の衣袋の傍にまき流ありむ案より送是ハ丸の紋
付又自身不す是ハ自削の紋付給全具もま流ふ是外の廓
の控女ふあきより吉原の金
比留異世産 夏の吹流名のよとん
吉原下り流子をまきたり

居所地名

洛西 越名橋系 上の町 中の町 下の町 左

走町 揚屋町 中堂町 揚屋 十軒むり

角を使たる 茶屋 忘八屋 小向 中堂町の出口

名代 さくらを垣 衣紋橋 丹波口 朱雀遊 西

口 中車通 藝塚山 藤中屋吉吉仲の 龍女遊

不 出日分遠入の 洛東 祇園町 切通 辻子

馬むまうらうら 是も素以持鹿志の
浪中なみのちゆう 離節りせつ 中まが

きとりの女帝英声あてりし唱ひ
由ゆ 氏うぢ さとの名物の一りある南せむ
半室はんしつ 更節さらせつ 中まが

浪南なみのなん 能者のうぢ 更節さらせつ 園うゑん 八節はつせつ 宿節しゆくせつ

是も素以より 拳けん 何とせむ
流りながり 舞まひ やり 志こころ 是も素以

書俣あよまひ

浴西あびにし 祝儀いわいぎ 二月元日奉を申於て女帝の方よりあや

日抛ひなな 二月の物束の日取を延歩ニワ彩の情不抛入記草

別元日より二月初午まの ちんさむけ 蘇子すし 女帝のありふ

日抛ひなな 二月の物束の日取を延歩ニワ彩の情不抛入記草

若も出こよりやとく名の西を隠し 諸しよ 命いのち ありふ男と

ぎぬ 是れは舞のふと
手去 於て恋のゆゑ
皇仕込 ○ 松仕込 ○ 片仕込 ○

浪中 限の左轍 列を限りとして廊中を
揚先 後日納束のらや 揚前

洛東 揚先 後日納束のらや 揚前

浪南 揚先 後日納束のらや 揚前

中半 皇仕込のゆり松仕込乃 泊

七心違 極差町の丸松を二層に

松仕込 松仕込のゆり松仕込乃 松仕込

舞子の遠はなり限りおれど話ある客ハ松付
是日仕込を置きく時の松まきくわくせり

言説

洛東 正月三日 正月元日なるを肩と云ひくは流きくおの

浪南 初対面 客も女席も 一見 初対面と云ふの

間 花 外に松くまゝ海苔のうらを

立留 人ハ松仕込をさす 生受く

切合 女席舞子お宿し走 附込

松仕込 松仕込のゆり松仕込乃 松仕込

をゆるぎも... 見立... 半可... 利... 俗

あまのれきりか... 似馬... 向人... 光我... 中...

浪中... 主... 中...

は方姉... 借... 借... 借... 借...

借... 借... 借... 借... 借...

借... 借... 借... 借... 借...

借... 借... 借... 借... 借...

あすせ... 廓中の女... 口舌... 身揚...

所... 浮氣... 髪切... 仇切... 年月... 抗...

擺... 利遠... 年... 年... 年...

門松... 吉原... 初午... 涅槃... 神秋...

あり... ころ... あり... あり... あり...

あり... あり... あり... あり... あり...

洛西... 雜市... 三月... 雛市... 雛市...

村伊山屋豆腐 揚屋所 甘露梅 中の所 甘露梅 中の人へ

洛西 左史白粉 上の西油 太史紅粉 水米漬物

洛東 香煎 祇屋了 小町紅粉 同和製

造花 同所 花屋 同和製 浪中

西口 西口 西口 西口 西口 西口 西口 西口

羊羹

宋方所 此外數多有後編小出屯

諸國花街

丸山 肥前 長崎

下関 長門 萩

大坂町 宮島

室津 播別 萩町

高師 同所

柴屋町 江尻 大津

潮来 常別

四宮 同所 古市 勢州 青森 津輕 新泻 越後 寺泊 同所

敦賀 越前 三國 同所

酒田さく羽別はつべつ 走金しゆきん志原しげん 木辻きつじ 岡崎おかざき

彌勒町えんりくまち 磯原いそはら 右河みぎがわ 坊を出ぼくを出 漏も 后ご 編へ 花はな

是こゝ 上かみ 古跡こせき の部ぶ

江口えぐち 撰州せんしゆ 神崎かみざき 同所どうじよ 鶉野うずの 播原はら 鏡岩かみい 江別えべつ

浅妻あさづま 同所どうじよ 野上のがみ 濃原のうら

並木舎なみきや 身み 一ひと 本もと 次つぎ 編へ 里さと

題だい 一ひと 曲まが 能の 借か 通と 言こと と呼よ ぶ

是こゝ を身み 不ふ 仁に 之これ 都みやこ 如ごと 遊あそ 里さと 能の

右みぎ 心こゝろ 今いま 不ふ 年とし 中なか 乃すなは 行い 事こと 追お

乃すなは 手て 乃すなは 渡わた 乃すなは 小こ 男おとこ 麻あし の筆ふで 比ひ

命毛長子取水煙と有

のき集めし紙を張良の胸に

其のせきとるを紙く如し由治良

相乞入左右の一物と秘せよ

晋子堂

凡強敵

明治八年

五月吉日

仙名市井村奉行

何と止て

第天區

陸前田宮城郡

小七邑

目合甲立甲合

立取格七番

陸前田宮城郡

陵前因宮拔神
田分學案於